

---

# 幻想入りの人物アイデア膨らませ

麻雀小僧

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

幻想入りの人物アイディア膨らませ

### 【Nコード】

N86590

### 【作者名】

麻雀小僧

### 【あらすじ】

<http://ncode.syosetu.com/n648>

20のキャラを使わせて貰って話を作ってみる実験。

1)ある程度題名が長くないとクリックしづらくて堪らない( )前書き(

これはhttp://ncode.syosetu.com/n6

4820ノキャラを使って好き勝手話を作る実験物です。

真面目に読まないほうが良いですよ？

1 (ある程度題名が長くないとクリックしづらくて堪らない)

「ほーら夢幻、お土産だぞー」

「わーいありがとうお父さん！」

「あらあら、よかったわねー夢幻」

父さんは出張から帰ってくると必ず何かお土産を買ってきてくれた。

「開けて良い？ねえ開けて良い!？」

「ああもちろん良いぞ」

僕は父さんの居ない日があるのは寂しかったけど同時にお土産が楽しみで仕方なかった。

「うわー剣だあ！」

「どうだ？格好良いだろう？」

この日父さんがプレゼントしてくれた物はプラスチックで出来たおもちゃの日本刀だった。

「あれ？ここに夢幻って書いてあるよ？」

「ああ、その刀の名前だよ。土産屋で見かけたときお前と同じ名前で驚いてな。お前にぴったりだと思ったんだ」

刀の鞘に金色に彫られていた夢幻という文字はとても格好がよく、何より自分の夢幻という名前がとても好きだったので僕はすぐにその刀を気に入っていた。

「さあちよつとその刀を構えて見せてくれ夢幻」

「うん！……えい！やあ！」

「ははは格好良いぞ夢幻！母さんカメラ持ってきてくれカメラ！」

「はいはい、ちよつと待つてくださいいな」

父さんが久しぶりに帰ってきてくれた事、お土産に『夢幻』という刀を貰った事、母さんが笑ってくれている事、その全てが嬉しくて僕はいつまでもその刀を振り続けていた。

いつまでもいつまでもその幸せが続くと思っていた。

「夢幻や。お父さんとお母さんはね、遠い遠い所に行ってしまったんだよ……」

お爺ちゃんはそういつて悲しそうな顔で僕を抱きしめてくれた。

僕は目を覚まして直ぐにお医者さんにここは病院であることやまだ入院を続けないといけない事などを教えてもらっていたけど、お爺ちゃんが何を言っているのか良く理解できないでいた。でも、とても悲しいことが起こった事は理解できた気がした。

暫く入院した後僕はお爺ちゃん達の家泊まる事になった。一人でお泊りした事は何度かあったけど今までとは何かが大きく違っていた。和室にはお父さんとお母さんの写真が飾ってあった。

何年か経って僕はあの事故の全てを知った。あの日僕たちは家族旅行に出かけていた事、高速道路で対向車線のトラックが縁石を乗り越えて突っ込んできた事、その原因が飲酒運転だった事、そしてそいつの名前と住所全てを知った。

僕は今まで感じなかった怒りと憎しみを覚えた。僕が今まで考え

ないようにしていた事がモノが全て噴出してきたような感覚。僕は  
この時人を殺すことを決意した。

1 (ある程度題名が長くないとクリックしづらくて堪らない) (後書き)

最後適当過ぎたね。

くだらないギャグを書くための前フリのもりだったから終盤はデ  
ンションがあまり……。

続くけどやっぱ一話にまとめたほうが良かったかな？

あと純粋な東方ファンの方には本当に申し訳ありません。

原作名東方Projectはほぼ嘘です。

2 (何が書きたいのが良くわからなくなってきた) (前書き)

ギャグですよ？



## 2 (何が書きたいのが良くわからなくなってきた)

父と母の死の真相を知った日から僕は父の形見となった夢幻を手  
に修行に明け暮れた。祖父と祖母は塞ぎ込みがちだった僕が元気に  
なったと喜んでくれたが、雨や嵐の日でもひたすらに修行を続ける  
僕に徐々に恐怖を感じていったようだった。僕はそんな二人の様子  
を見て辛い気持ちを覚えたが僕がやらなければならない事の前には  
些細な問題だった。そうして5年の月日が流れ僕は夢幻を突き刺し  
直径50cm程の木を貫通させるほどの力(50cmより長いと夢  
幻の長さが足りず貫通できない)を身につけていた。穴だらけの不  
気味な木々を眺め復讐の時が来たと感じた。

住所と名前はわかっていた。トラック運転手である仇の男の生活  
は不規則でありそいつの家に行っても直ぐに会えない確率は非常に  
高かった。最悪2日3日の張り込みは覚悟していたが目的地のアパ  
ートに着くと丁度帰宅して来た男と出くわした。男は怪訝そうな顔  
で俺の横を通り過ぎて行ったが俺が誰であるかはまだわからないよ  
うだった。

「××××さんですか？」

顔は知っていたし直感で間違いなくこいつだと理解していたが俺  
は名を尋ねた。

「あ？」

他人と間違えるのを恐れたわけではない。上手くは言えないが溜  
めを作ったのだ。もしくはガンマンの早撃ち勝負だろうか。

「××××さんですか？」

僕の問いは言うなれば撃鉄を降ろす行為。直ぐにでも引き金を引ける準備をしているのだ。そう僕は引き金を引く合図を待っている。その合図とはもちろん……

「ああ、そうだけとお前は……」

男の言葉を最後まで聞かず僕は夢幻を鞘から引き抜きその男の腹部を深々と突き刺した。男は何が起こったか判らない顔をしていたが夢幻を引き抜くとその場に倒れた。僕はまだ息がある男の耳元に顔を近づけ8年前の交通事故の生き残りだと伝えると、男は一瞬はつとした顔をしてパクパクと口を数回動かした後完全に動かなくなった。男の脈を取り死亡を確認する。ポケットから携帯を取り出し警察に電話をかけ自首をした。警察を待っている間、男が最後に何を言おうとしたのか考え続けた。

結論から言えば警察は僕が男を殺した事を信じてはくれなかった。彼ら曰く玩具の刀で人間を殺すことは不可能だそうだ。何を馬鹿なことを言っているんだと僕は憤ったが馬鹿なことを言っているのは君だと一蹴されてしまった。なら目の前で見せてやるから夢幻を寄せと言って見たが大事な証拠物品だからと渡してもらえなかった。父の形見なので返してくださいと頼むと調べ終わったら必ず返すよと言われ僕だけ家に帰された。

その日の夜は祖父母の心配した顔や男の最期の顔、警察の対応、両親の思い出、僕の横にいつもあった夢幻の事が頭の中をぐるぐる回って中々寝付けないで居た。

## 2 (何が書きたいのが良くわからなくなってきた) (後書き)

黒月 夢幻：主人公14才 <http://ncode.syosetu.com/n64820/1/>

夢幻：八年前に主人公が父から貰ったお土産で50cm程のプラスチック製の玩具の刀。鞘に刻まれた夢幻の金文字がナウイヤングに馬鹿受けだったがもう殆ど剥れきっている。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8659o/>

---

幻想入りの人物アイデア膨らませ

2011年10月8日05時07分発行